

令和2年2月7日

芦屋市立美術博物館

2020年度事業計画書（案）

（指定管理者）

小学館集英社プロダクション共同体

来年度の展覧会では、各年齢層に合わせた企画内容を意識して構成しました。そのためコレクションだけではなく外部企画の展覧会も開催し、幅広い年齢層の来館を目指します。

夏には、東京五輪の開催に伴うスポーツ熱の高まりに関連し、「芦屋のスポーツ」を取り上げ、芦屋市立図書館やスポーツ推進課など、市内関係各所一体の協力体制で連携を深め、秋には、谷崎潤一郎記念館のコレクションも活用した展覧会を開催します。また「まなびはく」「つくる場」では、よりこどもも含め幅広い年代が楽しめる企画内容で、親子の参加を促します。

1. 個人情報保護

管理上知り得た利用者・関係者の個人情報を保護するために、「芦屋市立美術博物館及び谷崎潤一郎記念館 個人情報保護マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 法令で認められている場合を除き、個人情報の第三者提供、開示を禁止します。
- ② 個人情報を取得した書類、パソコン、CD、メモリなどの媒体を許可なく外部に持ち出すことを禁止します。
- ③ 紙媒体での個人情報は、必要最小限の保管とするとともに、鍵付きのロッカーに厳重に保管します。
- ④ ホームページ、メールなどへのウイルス侵入を防ぐためセキュリティソフトの整備、定期的なネットワークチェックを行います。
- ⑤ 個人情報の収集時には、必要に応じて職員が説明を行います。
- ⑥ 個人情報の取り扱い業務を外部に委託する場合は、委託先と協議の上覚書を取り交わすなど、厳重な管理を行います。
- ⑦ 個人情報保護に関する研修を年1回以上実施し、定期的に職員が個人情報の取り扱いについて徹底する機会を設けます。
- ⑧ 個人情報保護に関する内部監査を実施します。

2. 安全管理対策

利用者の安全を第一に考え、法令を順守した適切な内部管理を行うとともに、可能な限り危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制を整えます。「芦屋市立美術博物館及び谷崎潤一郎記念館危機管理マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 緊急時の状況を想定した防災訓練、防犯訓練を行い、不測の事態に備えます。
- ② 避難経路の確保、非常時の避難器具、消火器具の作動確認を定期的の実施します。
- ③ 芦屋市、消防、警察等、関係機関との連携を密にし、防犯情報等の共有に努めます。
- ④ 利用者、周辺施設と連携した訓練を行い、地域ぐるみの防災・防犯体制構築を図ります。
- ⑤ 危機管理マニュアルは職員の周知徹底を図るため週1回の読み合わせを行い、状況に併せた改訂を重ねていきます。

3. 研修

職員のスキルアップ、安全管理体制の徹底を図るため、定期的に研修を実施します。

研修名	対象	頻度
新人研修	新規採用者	入職時
個人情報保護・セキュリティ研修	全職員	年1回以上
接遇・マナー研修	全職員	年1回以上
避難訓練・防災訓練	全職員	年2回以上
防犯訓練	全職員	年1回
職務研修 ※業務に応じたスキルアップなど	各担当職員	職員の申請に応じて責任者が承認

4. その他

①地域、市民との連携

地域、市民、利用者と協同し、共に美術博物館及び谷崎潤一郎記念館を創り上げていくために下記の取り組みを実施します。

i) アンケート調査に基づく顧客満足度の向上

アンケート調査を引き続き実施分析し、市民をはじめ幅広い利用者により親しまれ、利用される美術博物館を目指します。

ii) 博物館実習の受け入れ

毎年、10人以上の大学生の受け入れをしていますが、今後も学芸員育成のため、カリキュラムを充実し、広く募集します。例年、応募者が多数のため大学ごとに人数を割り振り不公平のないよう努めます。

*平成31年度実績

同志社女子大学、近畿大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、京都女子大学、関西学院大学、成安造形大学

iii) 職業体験（トライやる・ウィーク）

市内中学生のトライやる・ウィークでの職業体験学習の受け入れをし、美術・博物館に関心のある若い世代に体験の場を提供します。

iv) 館だよりの発行

両館をより多くの市民に理解をいただくため、年1回、館だよりを発行します。

②収藏品台帳の整備

館の収藏品の状況把握と適切な管理のため、市と相談の上、収藏品台帳の整備を行います。収蔵資料をより活発に活用できる様にするを目標に、データベースを構築していきます。

芦屋市立美術博物館

1. 芦屋市立美術博物館運営基本方針

美術博物館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

【設置目的】

美術及び歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供し、その教養の向上を図り、もって市民文化に寄与することを目的とする。

【使命】

- (1) 美術部門と博物部門の共存
- (2) 芦屋ゆかりの美術作品・歴史資料等の継承
- (3) 市民参画・協働の促進
- (4) 子どもへの教育
- (5) 学習機会の提供

2. 展覧会予定（別途年間予定表を添付）

2020年度は、4月より「藍のファッション」展を開催。日本の伝統産業である、藍染による浴衣やファッションの展示を開催します。夏季展覧会では本年7月24日から開催の東京オリンピックなどスポーツの盛り上がりに合わせて「芦屋とスポーツ」に関する展示を開催。当館でも初めてスポーツを題材にした展示を開催致します。秋季は当館所蔵作品（小出楯重ら）と谷崎潤一郎記念館の所蔵資料を活用した展覧会を開催。文化ゾーン連携と他分野を融合した展示を行います。

冬季は「香川元太郎と迷路絵本展」を開催。迷路絵本作家である同氏の原画や立体迷路を展示。また、歴史考証に基づいた「城郭」「寺社」などの鳥瞰図も数多く描いており、関西圏における史跡の鳥瞰図原画も展示します。

2月には例年恒例の「第38回芦屋市造形教育展」、そして3月からは、約40年ぶりの開催となる「河口龍夫・植松奎二」の二人展を開催します。

また、歴史展示室では、4月より「芦屋の歴史と文化財」、12月からは、恒例の「昔のくらし」展を開催します。

具体的な内容は、下記の通りです。（※展覧会名称は変更する場合があります。）

【第一展示室/第二展示室/歴史資料展示室】

◇4月7日(火)～6月7日(日) 54日間

藍のファッション展

日本の伝統的な染色である「藍」をテーマに浴衣や藍染めファッションの展示を行います。また、現在活躍中のデザイナーの作品も紹介し、その魅力に迫る展示を行います。

【第一展示室/第二展示室】

◇6月27日(土)～9月6日(日) 59日間

芦屋・スポーツものがたり(仮)

戦後間もない1948年に市長に就任した猿丸吉左衛門市長は、自身がアスリートだった経験から「スポーツのまち」を目指し、全国に先駆けてスポーツに関する様々な取り組みを行っていました。芦屋ゆかりのアスリートや、競技をはじめとして、芦屋とスポーツの関わりから今日のスポーツの発展を、貴重な資料とともに紹介します。

【第一展示室/第二展示室】

◇9月19日(土)～11月23日(日) 57日間

芦屋の時間 大コレクション展(仮)

当館所蔵の小出楯重、アシヤカメクラブ、具体美術協会などのコレクションと、谷崎潤一郎記念館の資料を通して、芦屋における美術と文学の関係性を探ります。また、現在活躍中の小説家(調整中の為非公表)・学芸員それぞれから、同じ作品についての解説を行い、それぞれの目線から作品の魅力に迫ります。

【第一展示室/第二展示室】

◇12月5日(日)～2021年2月7日(日) 50日間

香川元太郎「迷路の絵本」展(仮)

迷路絵本の作家として、数多くの作品を世に生み出している作家・香川元太郎氏の原画を展示。立体迷路も制作し、家族で楽しめる展示を行います。また、歴史考証イラストレーターとしても著名な同氏は、関西圏における「城郭」や「寺社」の鳥瞰図も数多く手がけており、その原画も併せて展示します。

【第1展示室/第2展示室】

◇2021年2月13日(土)～2月21日(日) 8日間

第38回芦屋市造形教育展

市内の幼稚園・小学校・中学校生徒の作品を全館にわたり展示します。

【第1展示室/第2展示室】

◇3月9日（火）～5月9日（日）54日間

河口龍夫・植松奎二 世界に触れる方法（仮）

かつて関西初の公立美術館（神戸市立南蛮美術館）での現代芸術展として開催された、河口龍夫・植松奎二の二人展を45年ぶりに芦屋にて開催します。時間・歴史・重力などの「見えないもの」をテーマに、両氏の作品を展示していきます。

【歴史資料展示室】

◇①4月7日（土）～11月23日（日）176日間

②2021年3月7日（土）～2021年11月頃（予定）

芦屋の歴史と文化財展

2012年に芦屋市指定文化財に指定された「芦屋川の文化的景観」が育んできた芦屋の歴史を古代、中世・近代の各時代にわけ、それぞれの時代の主要な歴史資料をご紹介します。また、市制80周年を迎えるにあたり、芦屋市の歩みを伝えるコーナー展示も開催予定です。

※①期のみ

【歴史資料展示室】

◇12月5日（土）～2月21日（日）58日間

昔の暮らし展

昔の人が大事に使っていた資料を通して、道具やくらしが変わってきたことには、人々のどんな知恵や願いが込められていたのかを考えます。今のくらしができるようになった道具の進化や人々の工夫をご覧ください。

6. 講座・イベント等の予定（教育普及事業）

「芦屋市立美術博物館運営基本方針」で示されている「学習機会の提供」という使命に則り、幅広い世代に美術・歴史等に触れることのできる機会を提供します。

「まなびはく」を中心に外部有識者や研究者を招聘して各種講演会や講座を実施し、芸術や歴史に対する理解を深めていただきます。また、展覧会に連動した講演会やワークショップ等を盛り込み、芸術文化事業に対する理解を深めていただく機会を提供します。

また、「まなびはく」のワークショップを中心に、各展覧会でも絵や書などの自由な創作活動や、特に夏休み期間を中心に身近な材料を使った工作等のワークショップを開きます。その他のこどものためのワークショップについてはより多くの幼稚園、小学校、中学校の児童、生徒のみなさんに来ていただけるよう、子ども向けのワークショップを土日、夏休みを中心に実施します。

谷崎潤一郎記念館との連携も今年も取り組み、毎年2回行われている「つくる場」も両館

協力して実施する予定など、両館の連携を常に念頭に置きながら運営してまいります。

アートスタディプログラム 2019 「Mana-Bihaku/まなびはく」

2014年から2017年度にかけて「びはくルーム」と題した教育普及プログラムを開催、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象としたワークショップや講座、イベント等を行ってきました。

そして2018年度より方向性を一新し、学生以上の一般の層をターゲットとした講座内容に特化し、当館ならではの教育普及プログラムとして、2018年6月よりアートスタディプログラム「まなびはく」と題し、美術家や美術史家、小説家などを講師に招き、芸術の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見していく講座を開催しました。

2020年度も引き続き、本プログラムを通じた美術を学び発見する面白さ・楽しさ・難しさといった体験から、自己の既成概念を超えて様々な事柄を感じ、考える力を一層強め、より豊かな生活への一歩としていただけるように努めます。本年は特に「大人も楽しめるワークショップ」の開催など、幅広い年代の方が参加し、楽しみながら学べるプログラムを計画しています。

子ども向けの教育普及事業も引き続き取り組み、伊勢幼稚園と連携プログラムや未就学児童、小・中学生、高校生が興味をもって参加できるような内容の事業も行う予定です。

【講座 まなびはく】

2020年6月頃～ 【全6回程度（調整中）】

大人も体験できるワークショップやアートパフォーマンス、美術評論等、様々なテーマに開催を予定しています。

* 展覧会名は、変更する可能性があります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
歴史資料展示室	一芦屋の歴史と文化財一					
期 間	4月7日(土)－11月23日(日)					
第1展示室	藍のファッション展			芦屋・スポーツものがたり(仮)		
第2展示室						
期 間	4月7日(火)－6月7日(日)			6月27日(土)－9月6日(日)		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
歴史資料展示室	芦屋の時間 大コレクション展(仮)		昔の暮らし			
期 間			12月5日(土)－2月21日(日)			
第1展示室			香川元太郎「迷路の絵本」展		第38回芦屋市造形教育展	河口龍夫・植松奎二 世界に触れる方法(仮)
第2展示室						
期 間			9月 19日(土)－11月23日(日)		12月5日(日)－2月7日(日)	